

【 会 議 録 】(概要)

日時:平成 20 年 10 月 21 日(火) 18:00~21:10

会議名	越谷市自治基本条例審議会 第 2 部会 第 9 回会議	場所	越谷市役所第二庁舎 5 階 研修室 1・2
件名 議題	協議事項 (1) 10 月 17 日の運営・調整委員会ワーキンググループ(作業部会)の報告 (2) 今後の部会の進め方について (3) 資料(パブリックコメントの整理、懇談会アンケート自由意見集)について		
資料等	有 無		
出席者	出席委員 小河原部会長、有元委員、伊東委員、宇佐美委員、大熊委員、加藤委員、帆苅委員、佐々木委員 (8 名) 欠席委員 高橋副部会長 (1 名) 事務局 田中企画課副主幹、水口同主事、斉藤同主事 (3 名) 支援者: 特定非営利活動法人越谷 N P O センター (2 名) 傍聴者 なし		
内 容	別紙 主な意見等の通り 合意・決定事項等 ・【資料 2】(パブリックコメントの整理)及び【資料 3】(懇談会アンケート自由意見集)にある意見について、「意見の趣旨を素案検討の際に考慮する」、「現段階では保留とする」、「既に骨子案に盛り込まれている」等の確認を行った。 ・【資料 1】(懇談会等意見集)の「前文」「総則」「その他」の部分について、同様に「意見の趣旨を素案検討の際に考慮する」、「現段階では保留とする」、「既に骨子案に盛り込まれている」等の確認が未了のため、次回会議で確認することとした。 ・次回会議(第 10 回会議)を 11 月 14 日(金) 18:00~20:00 の日程で開催することとした。		

主な意見等

- (1) 10月17日の運営・調整委員会ワーキンググループ(作業部会)の報告
- ・部会長から、10月17日に行われた上記会議での協議内容について報告があった。17日の会議では、条例の構造についてワーキンググループの各委員が持ち寄った案を元に協議し、このあと24日にまとめを行ったうえで、運営・調整委員会において全体会へ提案する構造案をまとめる予定、との内容だった。
- (2) 今後の部会の進め方について
- ・運営・調整委員会で条例の構造案が示された後、11月中旬に予定される全体会までの間、部会で何らかの作業が進められないか。
 - ・全体会の前に部会を開催し、ワーキンググループで進められている議論をもとに、ある程度の素案検討の割り当てを決めたり、条文の書き方などを統一したりしてはどうか。全体会での決定後、それらを推敲、修正すればよい。
 - ・様々な解釈ができる条文では困ると思う。
 - ・答申には、各条項の「解説」を盛り込みたい。
 - ・他の部会の動きを知らないまま全体会に臨んでも議論が進まないのではないか。
 - ・「自治力」は、新しいことばなので、捉え方や定義が難しい。
- (3) 資料(パブリックコメントの整理、懇談会アンケート自由意見集)について
- ・パブリックコメントで出た意見・感想については審議会である程度議論が必要だ。
 - ・現在、市にはパブリックコメントに関しての法的な根拠はないが、今回の自治基本条例において根拠を盛り込むかという議論も出てくるのではないか。
「パブリックコメントの整理」について
 - ・「0 前文」に関する3つの意見、「9 市民 市民の権利」「10 市民 市民の責務」「14 市議会 市議会の責務」への意見について、意見の趣旨を確認する。
 - ・「7 自治の基本原則 財政自治の原則」への意見について、骨子案の趣旨は財源の確保を国・県にも求めていく道を閉ざすものではない、と考えられる。
 - ・「19 行政運営 運営原則」への意見については、「行政の義務」は当然のことであり、あえて書く必要はないのでは。「責務」という言葉もいらないかもしれない。「市民の安心...な生活の確保」については、前文や総則に盛り込まれたらよいと思う。
「懇談会アンケート自由意見集」について
 - ・(仮称)越谷市自治基本条例のネーミングを考える時期ではないか。
 - ・条文は簡単にし、素案には「解説」を添付したい。
 - ・高齢者や障がい者、子どもなどについて、どう条例に盛り込むか議論が必要だ。
 - ・弱者について個別に取り上げるのではなく、当事者参加という概念を取り入れたら良いのではないか。
 - ・「コミュニティ」について具体的に説明が必要だ。
 - ・自治基本条例ができることによって市民生活がどう変わるのかが見える条例にしたい。
 - ・意見 No.159「声をあげにくい人の意見をどう吸い上げるか」は、何らかの形で条例に取り入れたい意見だ。
 - ・意見 No.190「早晩、緑豊かな農地はなくなってしまう」に関して、「地産地消」を条例のどこかにあえて盛り込んでいければ、と考えている。
 - ・農業と産業の振興は、相反する面もあるので、どのように扱うかが難しい。